

議事 4

地域公共交通関係先進事例調査について (ＩＣカード、乗継拠点、バスロケーションシステム等)

1 現状および目的

- ・国では、昨年２月に閣議決定した「交通政策基本計画」において、旅客交通のサービスレベルの向上や訪日外国人旅行者２千万人に向けた取組の一環として交通系ＩＣカードの普及・利便性拡大を位置付け、東京オリンピックが開催される平成３２年度までにSuica、PASMO等の相互利用可能な交通系ＩＣカードをすべての都道府県で使えるようにするという目標を定めたところである。
- ・本年度を計画期間の初年度とする第２次秋田市公共交通政策ビジョンにおいても、利便性向上に向けた取組みとして「鉄道およびバスで利用可能なＩＣカードの導入検討」のほか、「乗継拠点を軸としたバス路線全体の見直し」「ＩＣＴを活用した運行状況等の提供」等を位置付け、検討を進めることとしている。
- ・計画の実施にあたり、これらの第２次ビジョンに関係する先進事例の調査を行い、今後の検討を進めようとするものである。

2 調査先および日時

- (1) 新潟市都市政策部都市交通政策課
平成２８年７月１９日（火）午後
- (2) 新潟交通株式会社
平成２８年７月２０日（水）午前（現地視察を含む）

3 調査内容

交通系ＩＣカード「りゅーと（RYUTO）」の導入経緯、関係者の役割、導入費用、導入後の課題等および乗継拠点施設、バスロケーションシステム等の状況について

〈りゅーとの概要〉

新潟市と新潟交通株などが検討を進め、平成２３年４月から新潟交通グループが運行する新潟市の一部の路線バスを皮切りにサービスを開始した。名称は、新潟の雅称「柳都（りゅうと）」に由来するもの。

平成２５年３月から、りゅーとエリアでＪＲ東日本の「Suica」のサービスも開始している。

4 調査人員

地域公共交通協議会委員（代理を含む）３名程度、事務局２名

5 調査費用

地域公共交通協議会予算から支弁